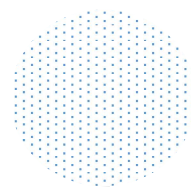


泉南市立小中学校再編計画 ＜複数案＞について

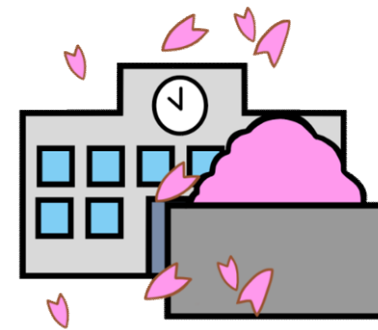


令和4(2022)年3月
泉南市教育委員会

次 第

はじめに

1. 泉南市が目指す教育
2. 小中一貫教育について
3. 新しい時代の学校施設
4. 多くの課題と優先すべき事項
5. A・A2・新B案（3つの再編案）
6. 再編案のメリットとデメリット
7. 再編に向けたスケジュール



はじめに

次の時代の担い手である泉南市の子どもたち一人ひとりの健全な育成は、社会の最優先事項であり、私たちの重大な責務です。

泉南市では、現在、泉南市教育大綱等に基づき、子どもたちに小中一貫教育を始め、ICT教育、国際化教育などの特色ある豊かな教育の実施に努めています。

この泉南市立小中学校再編計画〈複数案〉は、令和2年12月に作成した再編計画〈複数原案〉の再編案4案から、アンケートや住民説明会などの御意見を取り入れて再度議論し、3案にまとめ直したものです。

今後、この再編計画〈複数案〉を基に、泉南市教育問題審議会において御審議をいただく予定となっています。

1-1. 泉南市が目指す教育

泉南市の「大いなる希望」である子どもたちには、現実と向き合い、様々な困難を乗り越えながら、社会を構成する一員としてたくましい大人へと成長して欲しいと願い、次のような子ども（人間）を育成することを目指しています。

【泉南市が目指す子ども像】

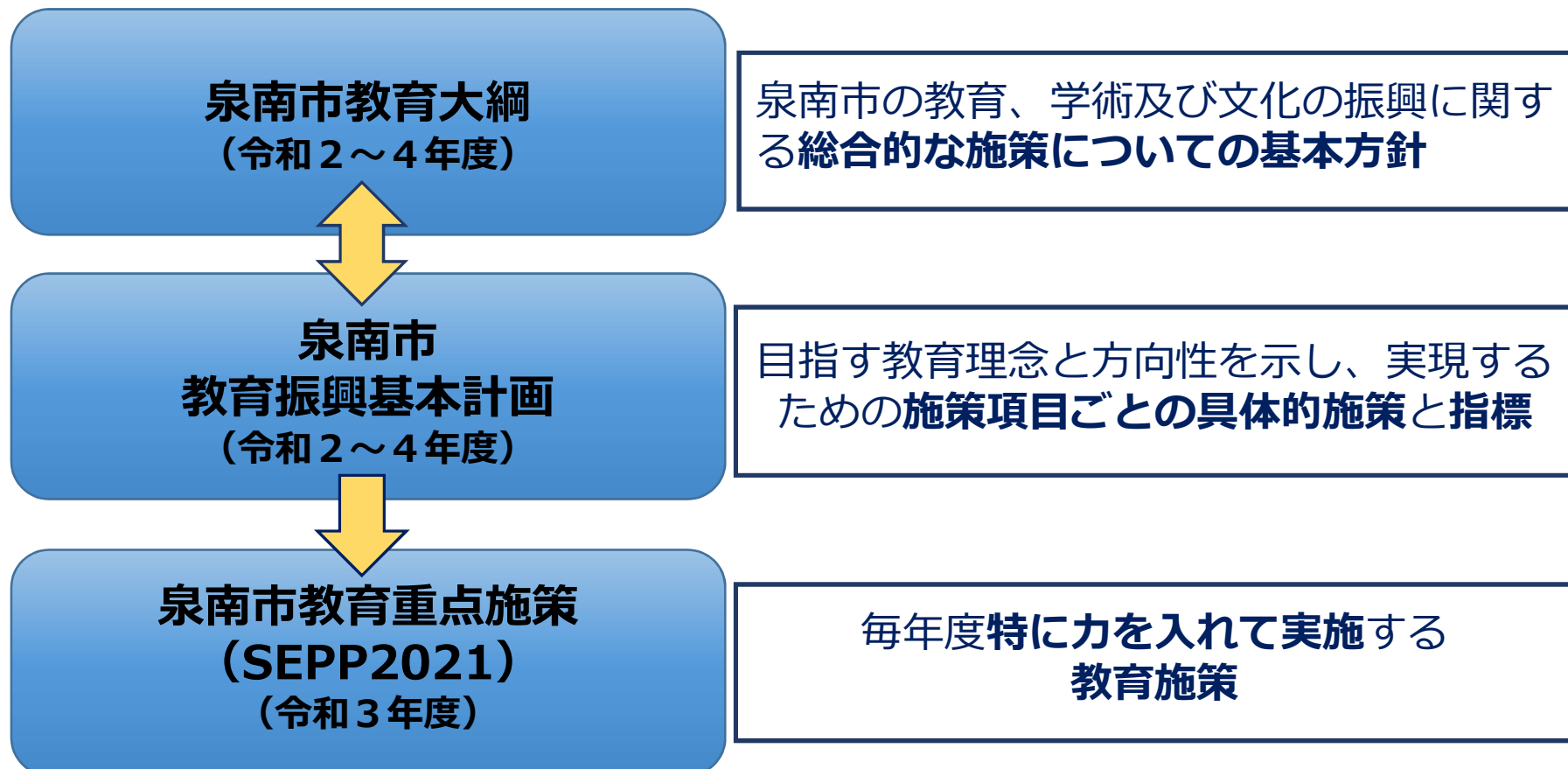
**希望と力をもち
たくましく生き抜く子ども**



- ◆希望をもち、現実の困難を乗り越えるたくましい子ども
- ◆確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を
バランスよく備えた子ども
- ◆グローバル社会を生き抜く
語学力とコミュニケーション能力をもつ子ども

1-2. 泉南市が目指す教育

泉南市の教育理念やビジョンと、目指す子ども像を明確に掲げ、その実現に向けて**系統立てて、計画的に**取組を推進



1-3. 泉南市が目指す教育

(1) 泉南市教育大綱（令和2～4年度）

泉南市の教育の目標や施策の根本的な方針として、**6つの基本方針を提示**

- ①就学前保育教育の充実
- ②小中学校の教育力の充実
- ③明るく安心できる学習環境の整備・充実
- ④安全安心な教育環境の整備
- ⑤生涯学習の推進
- ⑥市を挙げての教育施策の推進体制の確立



(2) 泉南市教育振興基本計画（令和2～4年度）

基本理念と目指す子ども像を明らかにし、大綱で掲げた6つの基本方針に沿って**具体的施策を展開**

【基本理念】皆で育む「大いなる希望」－つながりを力にして－

【目指す子ども像】希望と力をもちたくましく生き抜く子ども



1-4. 泉南市が目指す教育

(3) 泉南市教育重点施策 (SEPP_(セップ)2021)

毎年、特に力を入れて取り組む**教育施策をまとめ、令和3年度に目指すゴールイメージを共有**

①国際化教育

JETプログラムによる国際交流、国際化教育を推進

②ICT教育

GIGAスクール構想の推進によるICT環境の整備

③小中一貫教育

泉南市独自の小中一貫教育を構築
小中一貫教育が行いやすい
学校再編計画策定

④教職員研修

授業力向上による学力の向上
支援力向上によるいじめ、不登校の減少



2-1. 小中一貫教育について

◆小中一貫教育は、泉南市の教育施策の柱の一つであり、**小中学校再編計画の基軸**

◆平成29年に泉南市教育問題審議会の答申があり、次の2つの方針が示された



【方針】

○泉南市の子どもたちの生きる力と確かな学力を育成するため、**今後40年間**を目標に、児童生徒数の推移、建物の耐用年数等を踏まえた上で、**すべての小学校と中学校を小中一貫校とすることをめざす。**

○小中一貫校には「**施設一体型**」「**1対1の施設分離型**」「**1対多の施設分離型**」の形があるが、今後、めざす小中一貫校の具体的な形をはじめとするその在り方については、学校数や校区の在り様も含めて、答申後、丁寧に時間をかけて、地域住民や保護者等の意見を聴きながら市において計画を立てることとする。

◆学校の在り方を計画するに当たって、①～④の検討、⑤・⑥について留意が必要

- ①学校規模、②児童生徒数の動向、③耐用年数との関係、④教育コミュニティ、⑤調整区の解消、⑥地域住民、保護者等の意見を聴く

2-2. 泉南市が推進する小中一貫教育

◆泉南市は、これまで子どもの育ちと学びを連続して保障する取組や中学校区でキャリア教育の取組を推進

◆この取組を今後一層効果的、効率的に進めるため、**小中一貫教育を実践できる小中一貫校を構築**

(1) これからの教育の流れ

Society5.0時代を迎え、少子化と人口減少の急速な進行、新型コロナウイルス感染症の影響など**教育を取り巻く環境は大きく変化**

(2) 泉南市の目指す方向性

自らを**肯定的に捉え**、主張を持ち、他者とつながるために状況に応じて**自身の考え方を取りまとめる力**を高めていく

(3) 育ちと学びの連続性

保育所、認定こども園、幼稚園、小中学校が連携して教育内容や教育環境の構築に取り組み、子どもの**育ちと学びの連続性を保障**

2-3. 泉南市が推進する小中一貫教育

(4) 育ちと学びを保障

学校、保護者、地域で子どもたちの育ちと学びの連続性を保障するために**小中一貫教育とそれを実践できる小中一貫校**を構築

(5) 小中一貫教育の実現

- ①豊かな心と確かな学び（人権教育、生徒指導、各教科の力、道徳、外国語、支援教育）
- ②家庭、地域、就学前機関とのつながり

(6) 教育コミュニティづくり

各地域の文化を尊重し、違いを受け止めながら、対話と協働を基盤とする**学校施設づくりの中で調整区を解消**

(7) 柔軟な学校区制度

新たな特認校制度の導入など、**子どものニーズに応じた柔軟な学校区制度の構築**

2-4. 泉南市の小中一貫校の類型

◆小中一貫教育を実践するための小中一貫校には、施設形態として3形態、また法令上の学校形態として2形態がある

◆今後、泉南市が取り組む小中一貫校の類型として整理

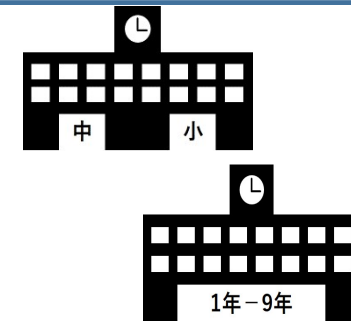
(1) 一体型

①小中一体校

小学校と中学校の校舎を同一敷地内に同一施設とすることにより、系統的な教育の実践を目指す一貫校

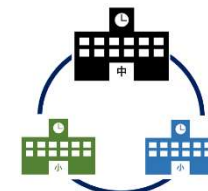
②義務教育学校

小学校課程から中学校過程までの9年間を一貫して行う一体校



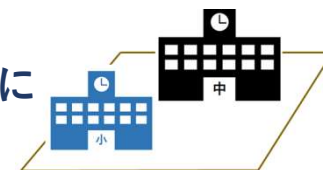
(2) 分離型

小学校と中学校の校舎と敷地が離れていても、同じ中学校区のグループ内で教員や児童生徒が連携して学習・活動する小中一貫校



(3) 併設型

小学校と中学校の校舎を同一敷地内に併設し、児童生徒の交流を容易にすることによって、より密接な連携を推進することができる小中一貫校



2-5. 小中一体校の具体的イメージ

◆全国的に小中一体校や義務教育学校は年々増加しており、新しい時代の学びを実現するための学校施設の整備が推進



新潟県三条市立三条嵐南学園（第一中学校、嵐南小学校）

小・中学校の9年間を通じた系統的な教育展開を目的に、中学校区内の**3小学校を統合し、施設一体型校舎**として、平成26年4月、三条市立第一中学校・嵐南小学校として開校



大阪府和泉市立南松尾はつが野学園
（義務教育学校）

9年間の育ちと学びを見通した継続、連続した生活指導・学習指導を目指して、1小学校と1中学校を統合し、平成29年、大阪府内では2校目の施設一体型・小中一貫教育を行う公立学校として新しく開校



3. 新しい時代の学校施設

◆文部科学省では、Society5.0やポストコロナを見据えて「新しい時代の学びに対応した学校施設の在り方について」検討を実施

◆泉南市でも、学校全体を学びの場として創造するという「**未来思考**」の視点をもって検討を推進

(1) 横断的、多目的な学びに対応できる、柔軟で総合的な学びの空間
学校全体を学びの場と捉え、階段状の空間でさえもステージやプロジェクタ等を備えた表現の場として活用

(2) 新しい生活様式を踏まえた健やかな学習・生活空間
小空間や木製ベンチを配置して温かみと潤いのあるリビング空間とし、子どもたちの居場所を確保

(3) 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間
地域コミュニティの拠点化の推進、他の公共施設（図書館等）との複合化を図り多様な「知」を集結する共創空間を創出

(4) 子どもたちの生命を守る、安全・安心な教育環境
地域の避難所として多様な人々が利用しやすいよう配慮

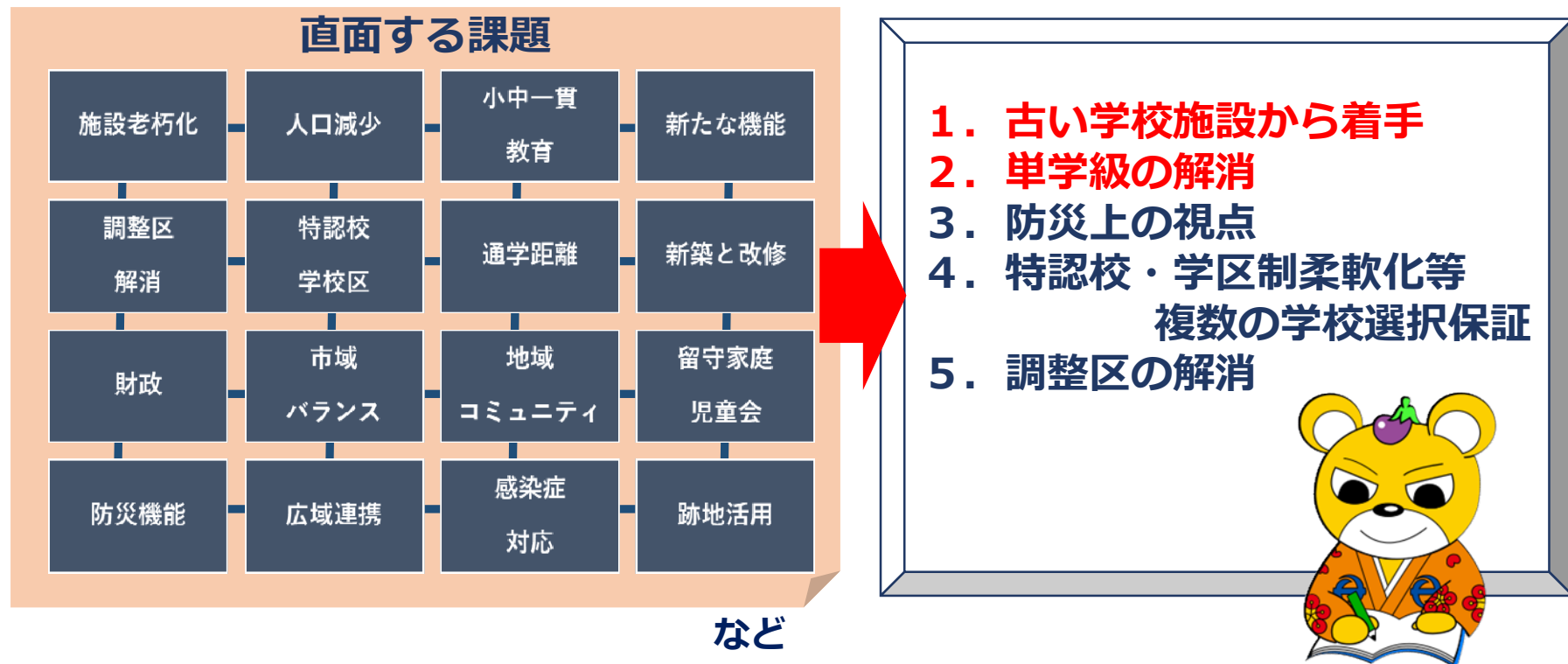
(5) 持続可能な教育環境
環境と地域の共生の観点から、持続可能な教育環境を創出



令和元年に新築した
泉南市立泉南中学校
(校舎・メディアセンター)

4. 多くの課題と優先すべき事項

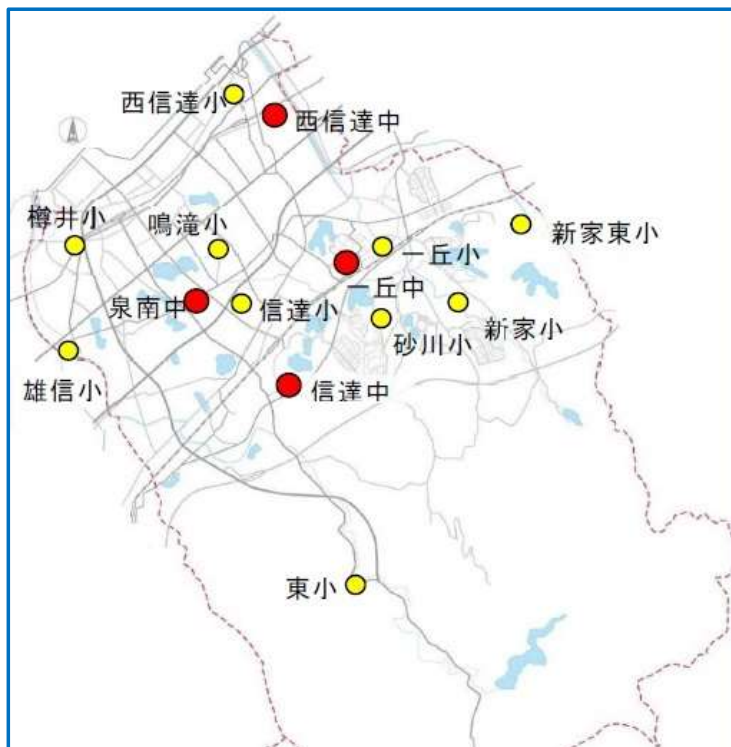
◆学校施設の老朽化や児童生徒数の減少のほか、直面する課題は複雑多様化しており、まずは優先順位をつけて5つの事項を優先して検討



5-1. A・A2・新B案（3つの再編案） 概要

- ◆再編計画＜複数原案＞で示した再編4案を基にして3案に再構築
- ◆計画期間は、1期約10年間とし、ⅠからⅣ期の合計約40年間の計画
- ◆社会情勢等が大きく変化した場合は、一定の手続のもと計画を見直す
- ◆東小学校は特認校として、各期において在り方を検討

【泉南市内の小中学校位置図】



A案

- ・現在の4中学校区を残す
- ・義務教育学校を1校、小中一体校を3校
- ・信達小学校をⅡ期で改修

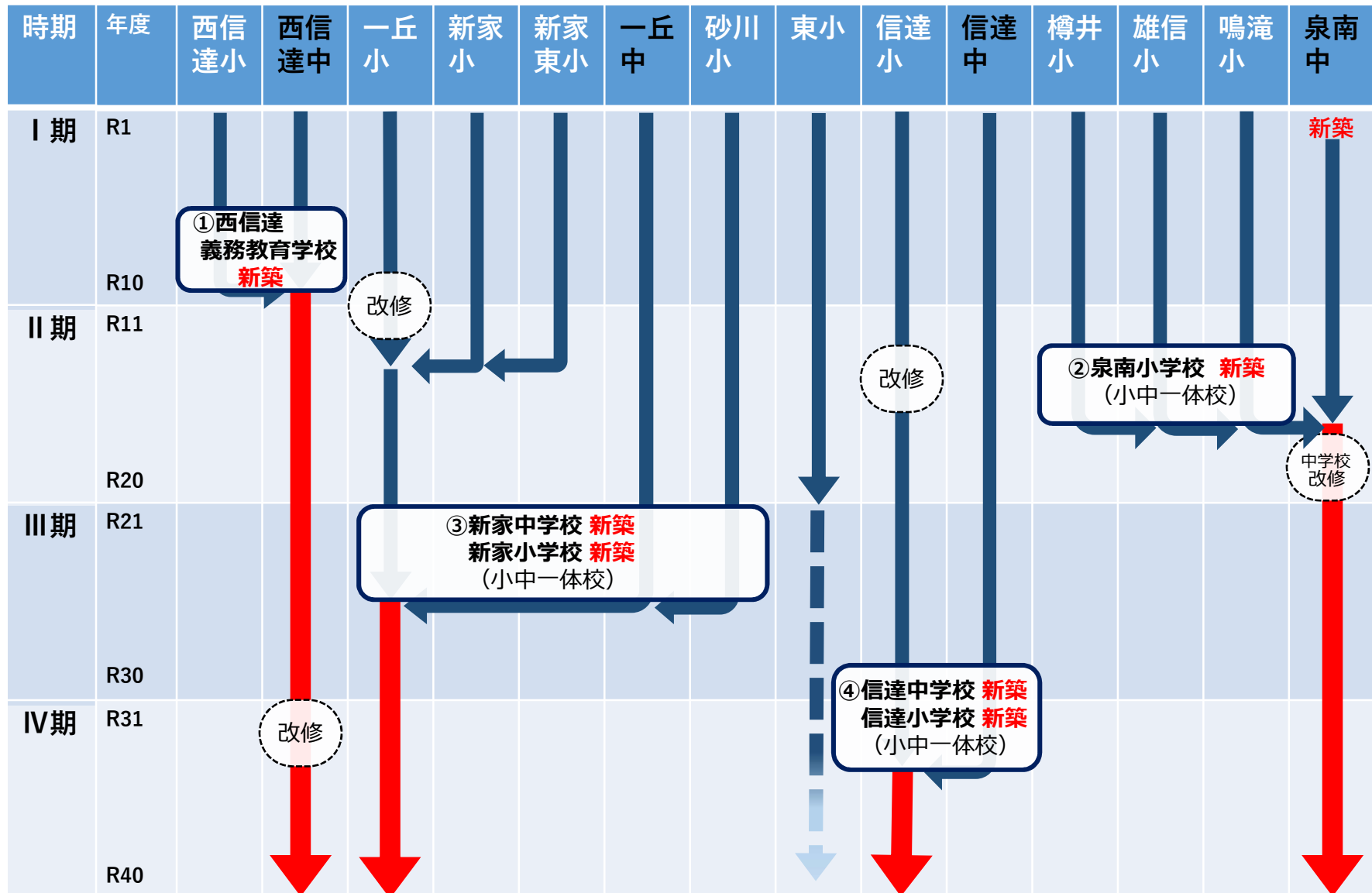
A2案

- ・現在の4中学校区を残す
- ・義務教育学校を1校、小一体校を3校
- ・信達小学校をⅡ期で新築

新B案

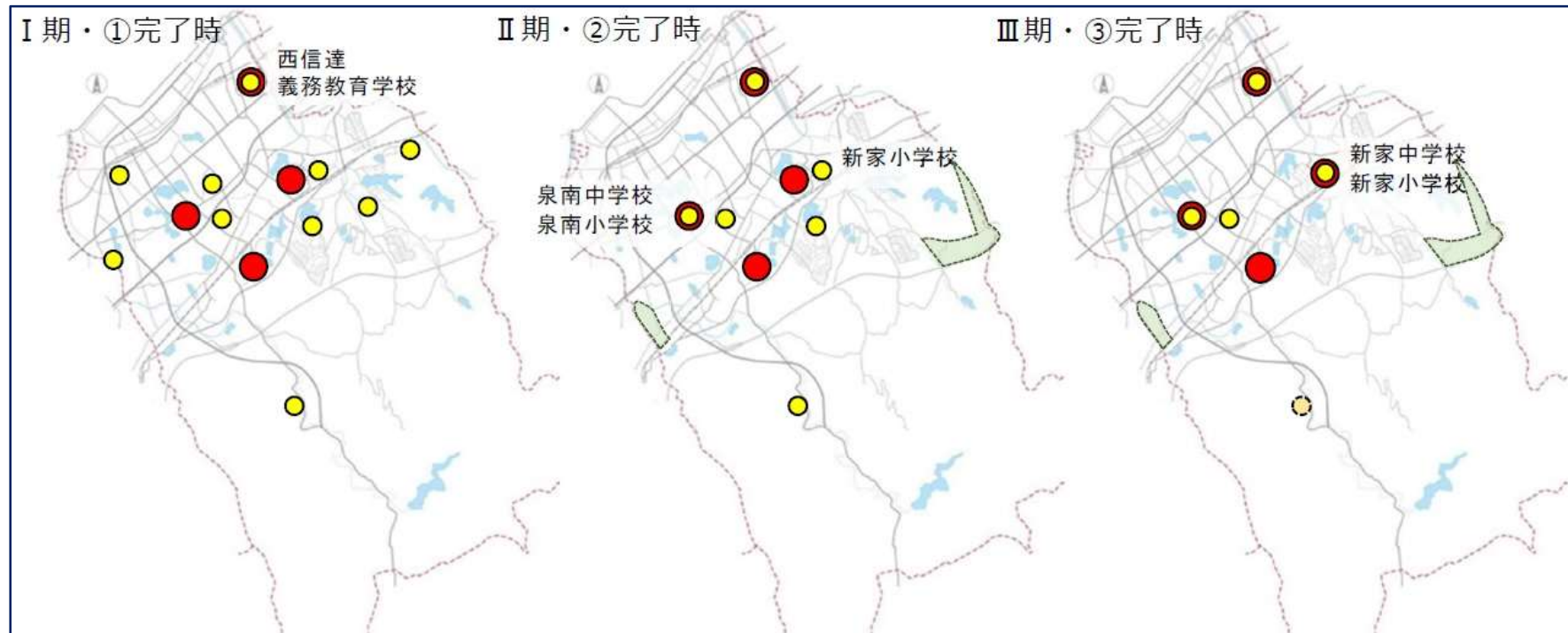
- ・信達中と泉南中を統合し、3中学校区
- ・樽井小、雄信小、鳴滝小を泉南中学校へ
- ・信達小学校をⅡ期で新築【小中一貫/分離型校】

5-2. A案（4中学校5小学校案） 再編スケジュール



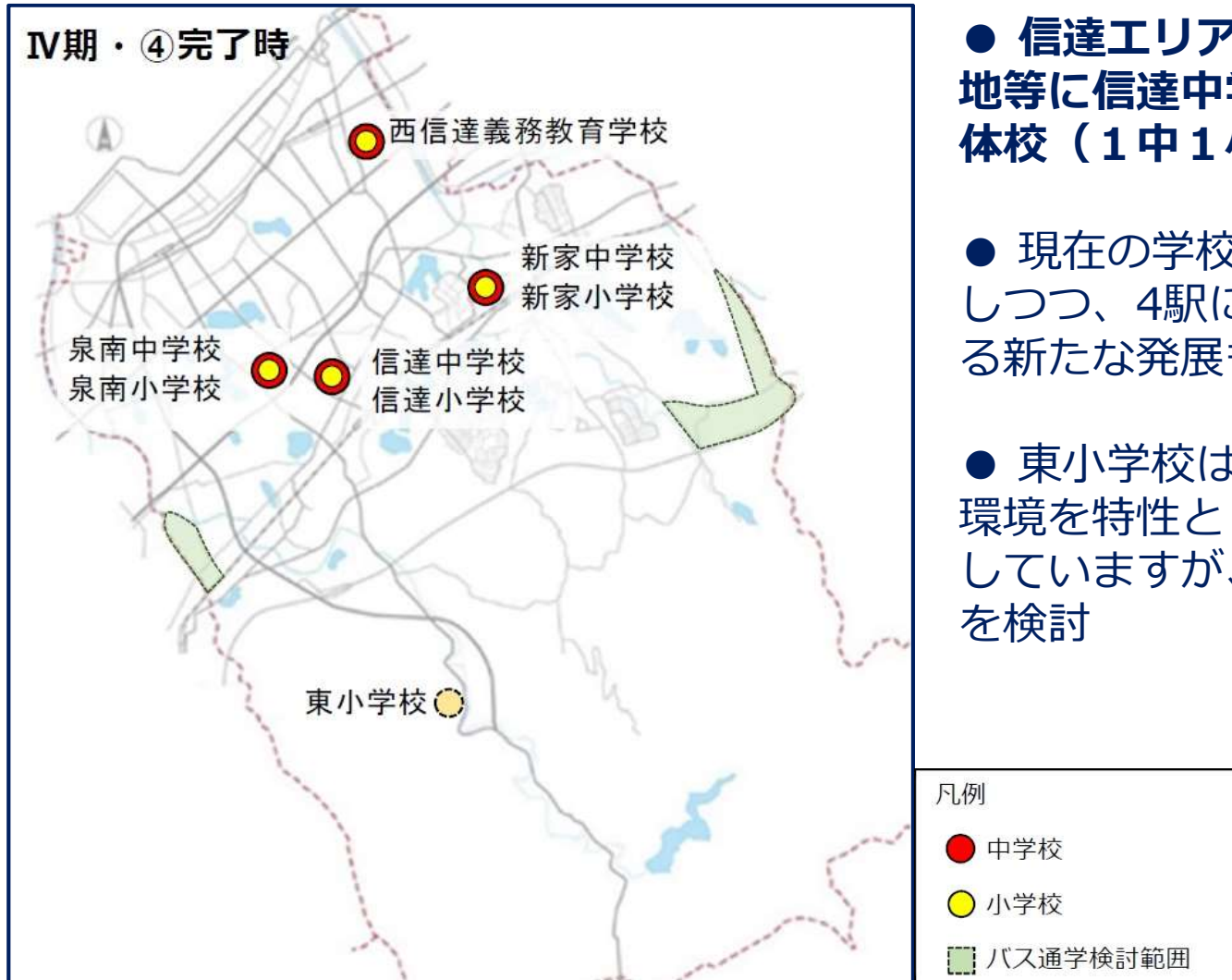
上記のほか、適宜改修等を行います

5-3. A案 各期末における学校位置図



- A案は、現在の4中学校区を残し、義務教育学校（9学年制）を1校、小中一体校を3つ（3中3小）新築する案
- 西信達エリアは、小中学校の老朽化が著しいため、西信達中学校敷地等に義務教育学校（9学年制）を新築
- 新家エリアは、3つの小学校（新家小、新家東小、一丘小）を統合し、第Ⅲ期に小中一体校（1中1小）を新築し、砂川小を新家小に統合するとともに、一丘中を移転します。
- 泉南中学校区の小学校（樽井小、鳴滝小、雄信小）は、泉南中学校の敷地等に新たな小学校を新築

5-4. A案 IV期完了時の学校位置図

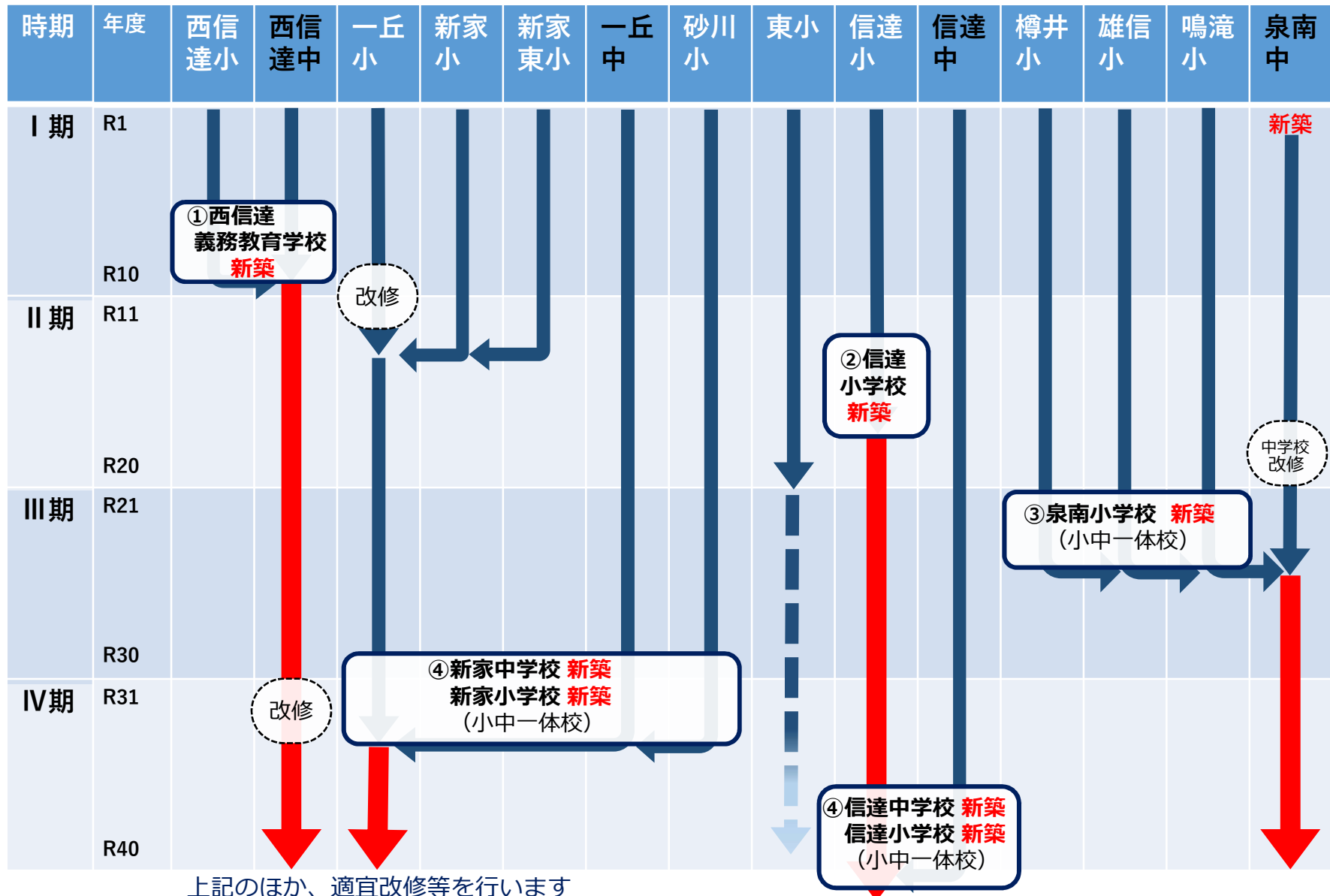


● 信達エリアは、信達小学校の敷地等に信達中学校を移転し、小中一体校（1中1小）を新築

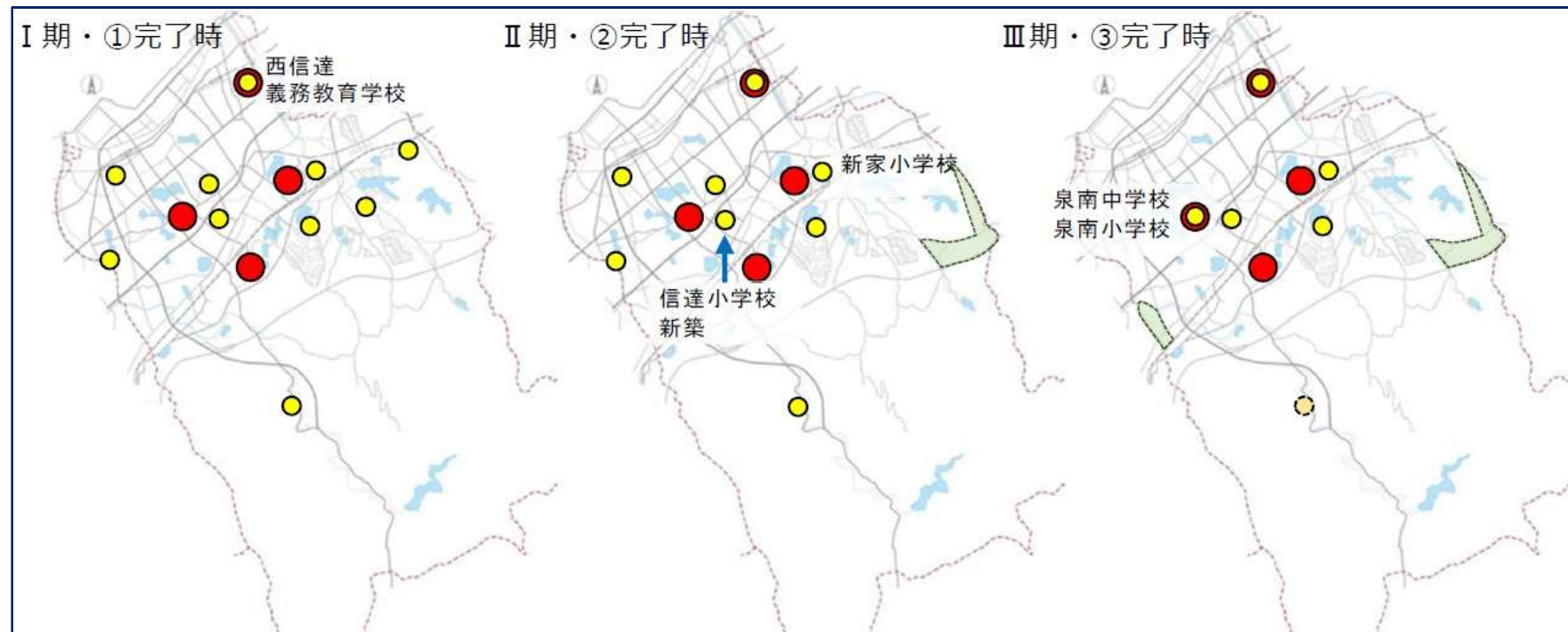
● 現在の学区をできるだけ存続しつつ、4駅に近く、跡地利用による新たな発展も視野

● 東小学校は、学校規模や校区の環境を特性とした特認校制度を導入していますが、各期において在り方を検討

5-5. A 2 案（4中学校5小学校案その2） 再編スケジュール

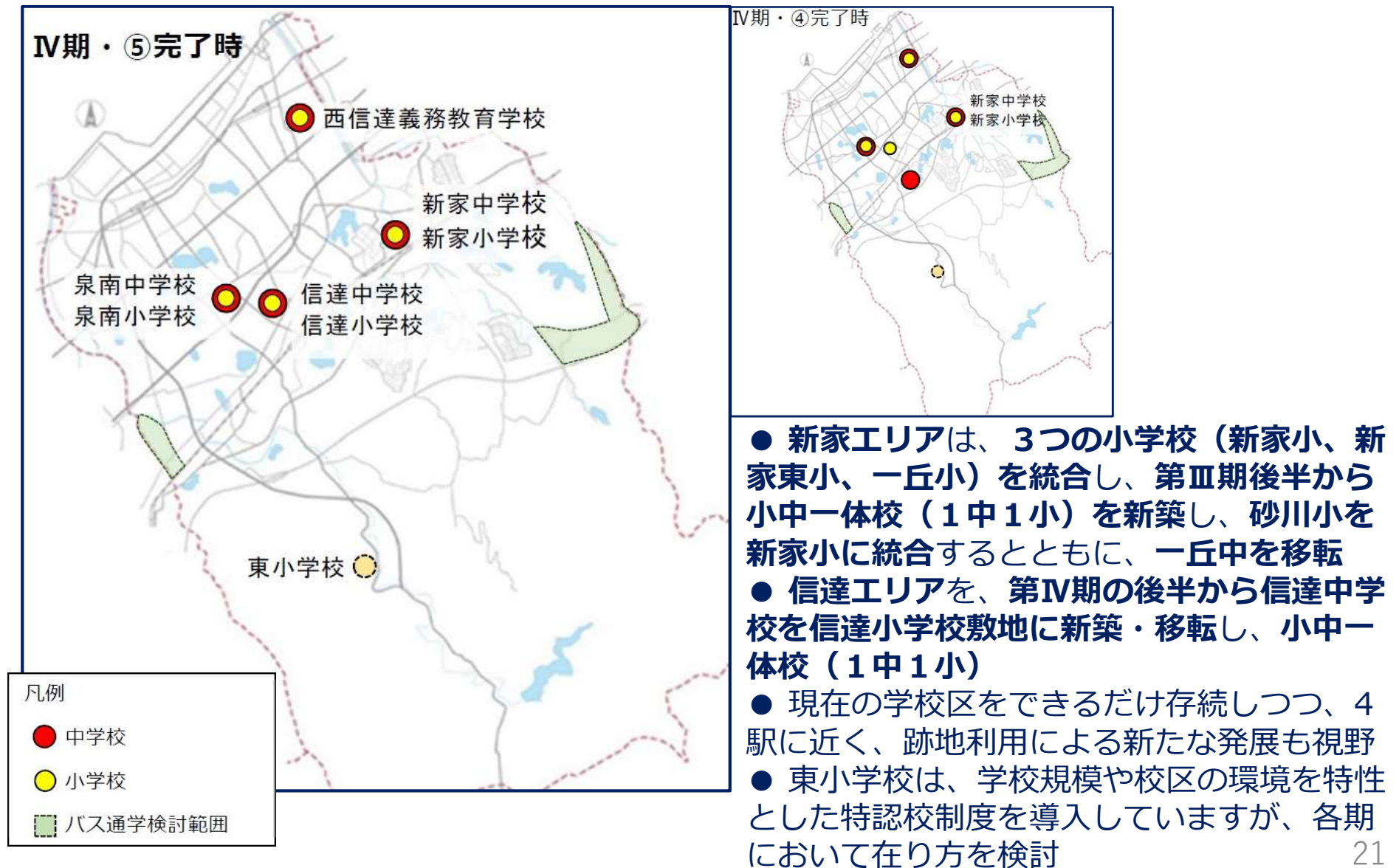


5-6. A 2 案 各期末における学校位置図

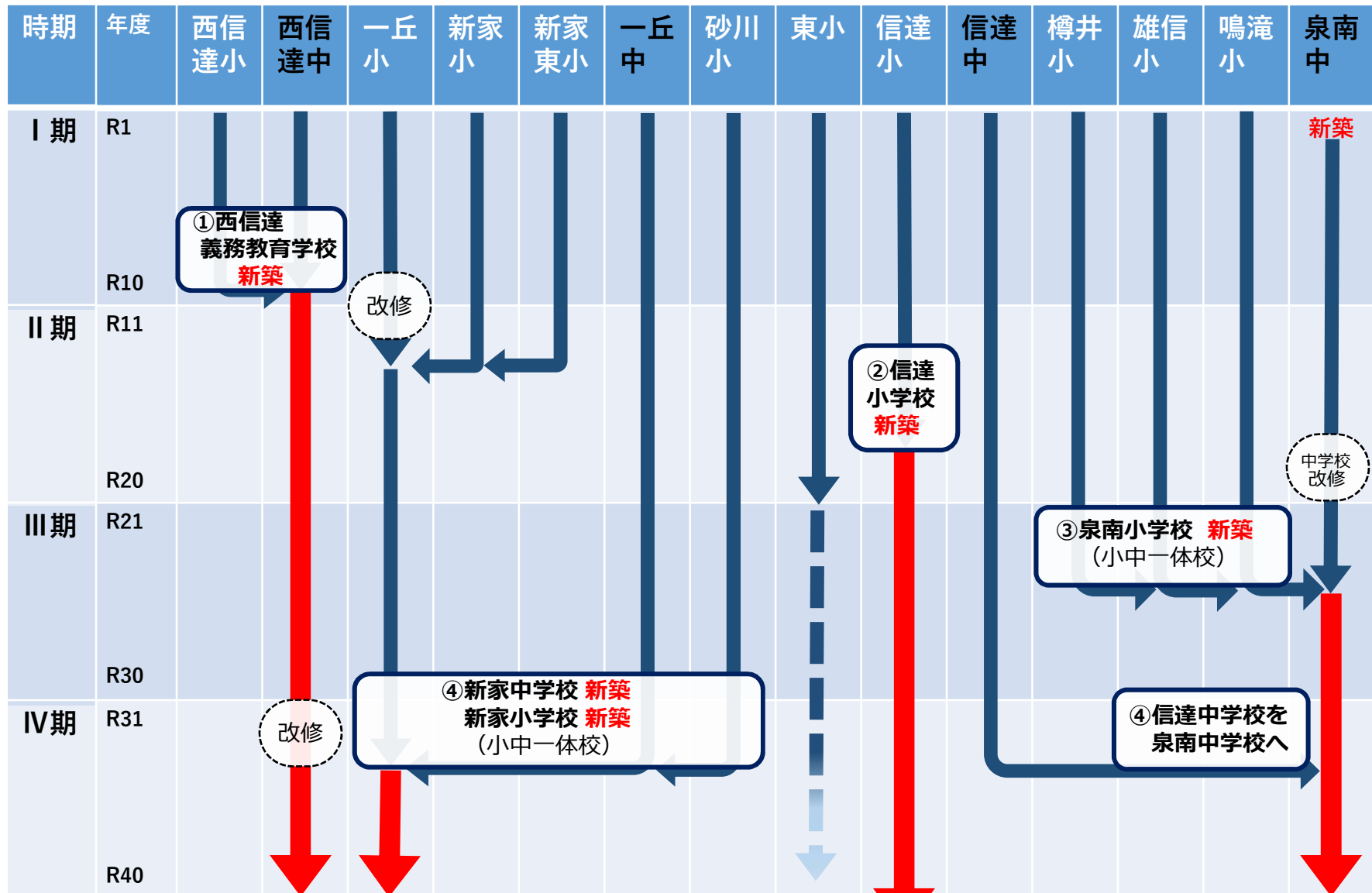


- A 2 案は、現在の 4 中学校区を残し、義務教育学校（9 学年制）を 1 校、小中一体校を 3 つ（3 中 3 小）新築する案
- 西信達エリアは、小中学校の老朽化が著しいため、西信達中学校敷地等に義務教育学校（9 学年制）を新築
- 信達エリアは、第 II 期に老朽化が進んでいる信達小学校校舎部分（体育館を除く）を新築
- 泉南中学校区の小学校（樽井小、鳴滝小、雄信小）は、泉南中学校の敷地等に新たな小学校を新築

5-7. A 2 案 IV期⑤完了時の学校位置図

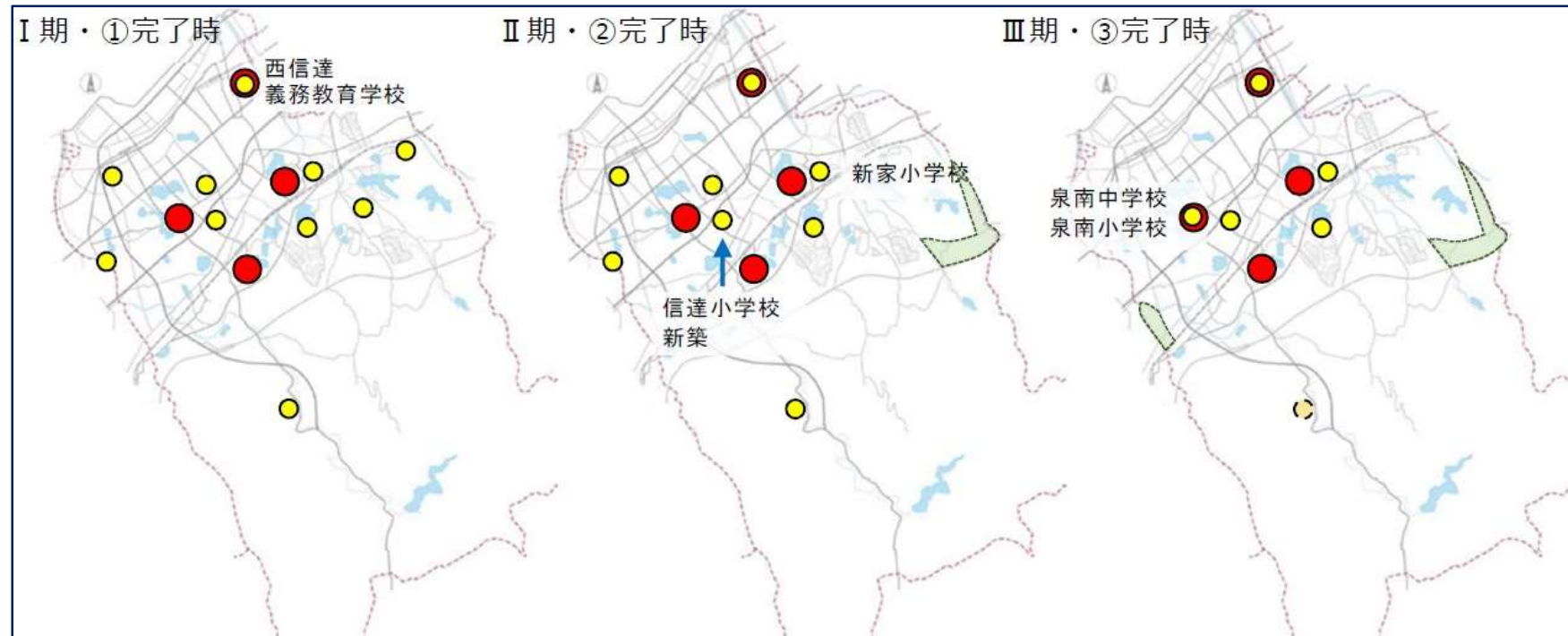


5-8. 新B案（3中学校5小学校案） 再編スケジュール



上記のほか、適宜改修等を行います

5-9. 新B案 各期末における学校位置図



- 新B案は、泉南中エリアと信達中エリアを統合し、義務教育学校（9学年制）を1校、小中一体校を1つ（1中1小）、1対多の施設分離型の小中一貫校（1中2小）を新築する案
- 10年以内に入学する子どもの人数が400人程度となるため、4中学校から3中学校に縮小
- 西信達エリアは、小中学校の老朽化が著しいため、西信達中学校敷地等に義務教育学校（9学年制）を新築
- 新家エリアは、3つの小学校（新家小、新家東小、一丘小）を統合し、第Ⅲ期後半から小中一体校（1中1小）を新築し、砂川小を新家小に統合するとともに、一丘中を移転
- 泉南・信達エリアは、第Ⅱ期に老朽化が進んでいる信達小学校校舎部分（体育館を除く）を新築し、第Ⅲ期に泉南中学校敷地等に樽井小、鳴滝小、雄信小を統合・新築

5-10. 新B案 IV期完了時の学校位置図

IV期・④完了時



● 泉南・信達エリアを、第IV期に信達中を泉南中に統合し、小中一貫校（1中2小）とします。その際、分離型又は併用型等の形態は柔軟に検討

● 東小学校は、学校規模や校区の環境を特性とした特認校制度を導入していますが、各期において在り方を検討

凡例

● 中学校

● 小学校

■ バス通学検討範囲

6. 再編案のメリットとデメリット

	メリット	デメリット
A 案	○現状の 4 中学校区が存続 ○小中一貫教育を進めやすい ○調整区が解消される ○西信達地区へ津波避難施設が整備可 ○西信達地区の特認校指定の検討可能 ○バス通学がほぼ生じない	●西信達校区の児童生徒数の今後の減少が懸念 ●児童生徒数の将来推計では 4 中学校は多い ●泉南小中学校と信達小中学校が近接 ●信達小学校の改修が限定的
A 2 案	○現状の 4 中学校区が存続 ○小中一貫教育を進めやすい ○調整区が解消される ○西信達地区へ津波避難施設が整備可 ○西信達地区の特認校指定の検討可能 ○老朽化が進む信達小学校の早期着手可能 ○バス通学がほぼ生じない	●西信達校区の児童生徒数の今後の減少が懸念 ●児童生徒数の将来推計では 4 中学校は多い ●泉南小中学校と信達小中学校が近接 ●信達小学校以降の学校の着手が遅くなる ●計画完了までの期間が最も長い
新 B 案	○現状の 4 中学校区にいずれかの学校が存続 ○小中学校が近接しているため、比較的小中一貫教育を進めやすい ○調整区が解消される ○西信達地区へ津波避難施設が整備可 ○西信達地区の特認校指定の検討可能 ○老朽化が進む信達小学校の早期着手可能 ○バス通学がほぼ生じない	●西信達校区の児童生徒数の今後の減少が懸念 ●信達小学校以降の学校の着手が遅くなる ●同一中学校区（泉南中学校区）にいて、小中一体型（又は併設）の小学校と分離型小学校の 2 つの小学校が生じる



7. 再編に向けたスケジュール

◆地域での丁寧な説明と意見交換に努め、泉南市教育問題審議会へ諮問し答申を得た後、令和4（2022）年度中の再編計画決定を目指します

時期	これまでの進捗と今後の予定
平成29（2017）年度	総合教育会議にて「今後の進め方」を決定
平成30（2018）年度	教育委員会事務局で議論を開始
令和元（2019）年度	複数原案のたたき台の作成
令和2（2020）年度	複数原案を作成 複数原案を広報を通じて公表
令和3（2021）年度 前半 後半	◆複数原案に対し、アンケート調査を実施 ◆複数原案に関して住民説明会実施 ◆教育委員会で複数案を作成し、複数案を決定 ◆教育問題審議会へ諮問、審議
令和4（2022）年度 前半 後半	◆教育問題審議会において審議、答申（一つの再編案へ） ◆教育問題審議会からの答申を受け、教育委員会において計画（案）を決定 ◆計画（案）についてパブリックコメント実施 ◆パブリックコメント結果を踏まえて、総合教育会議において再編計画を決定、公表 ◆泉南市立小中学校再編計画に基づく学校建築、改修に着手

ご静聴ありがとうございました

